

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月1日
【四半期会計期間】	第109期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	江崎グリコ株式会社
【英訳名】	EZAKI GLICO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 江崎 勝久
【本店の所在の場所】	大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号
【電話番号】	大阪 06(6477)8404
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 松本 節範
【最寄りの連絡場所】	東京都港区高輪四丁目10番18号
【電話番号】	東京 03(5488)8146
【事務連絡者氏名】	グループ広報部(東京) 窪田 精一郎
【縦覧に供する場所】	江崎グリコ株式会社 首都圏統括支店 (東京都港区高輪四丁目10番18号) 江崎グリコ株式会社 中部統括支店 (名古屋市東区東大曽根町22番28号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第108期 第1四半期連結 累計期間	第109期 第1四半期連結 累計期間	第108期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	72,953	78,415	293,002
経常利益(百万円)	1,634	4,271	6,452
四半期(当期)純利益(百万円)	686	3,552	3,287
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,030	5,536	10,555
純資産額(百万円)	107,291	121,045	116,347
総資産額(百万円)	212,141	229,511	219,363
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	6.04	31.22	28.91
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	49.5	51.5	52.1

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

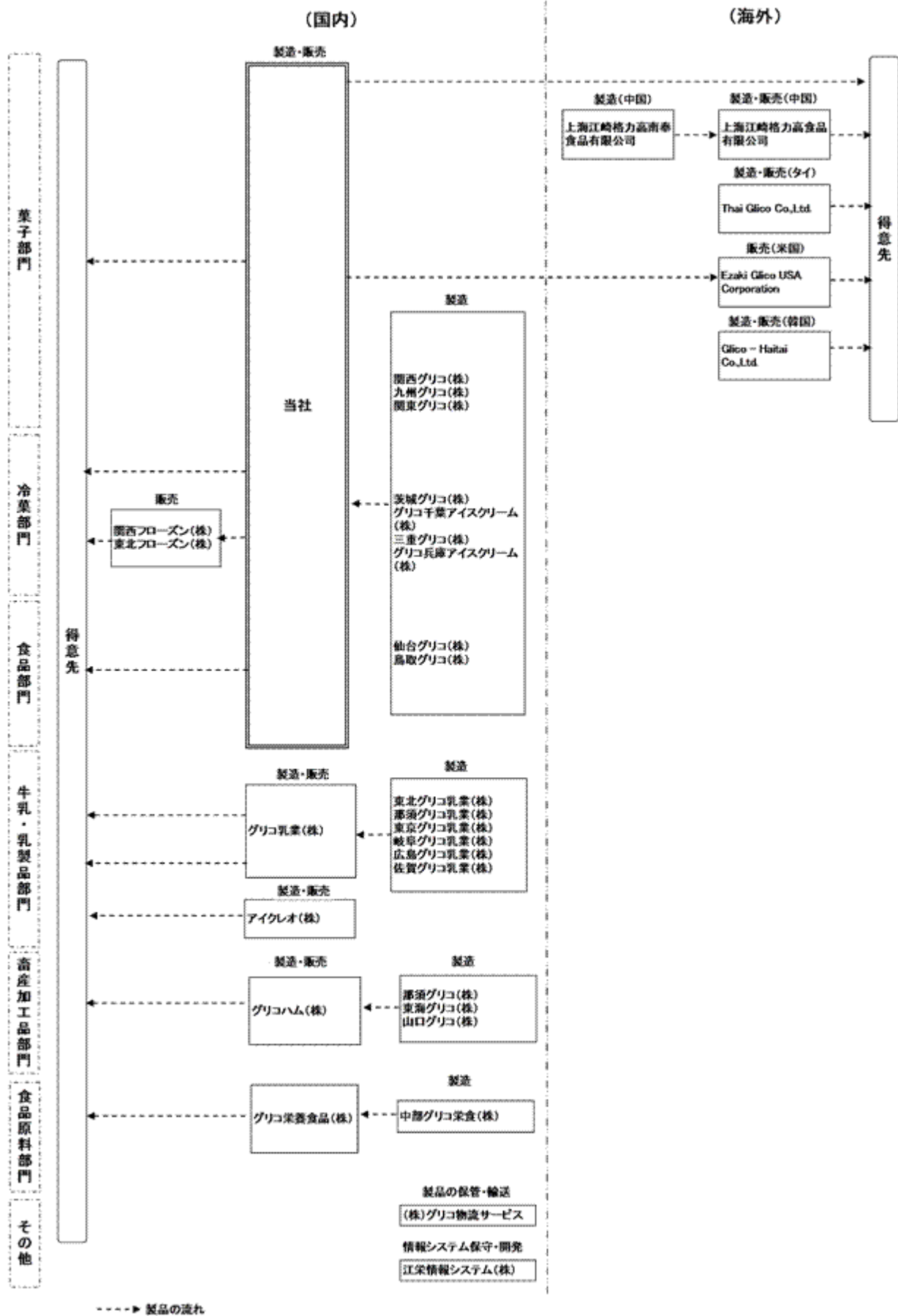
当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、菓子部門において、平成25年4月1日付で「神戸グリコ(株)」を存続会社として、「関西グリコ(株)」を吸収合併し、存続会社の会社名を「関西グリコ(株)」に変更いたしました。また、当第1四半期連結累計期間より、「Glico-Haitai Co., Ltd.」を連結の範囲に含めることとしました。

さらに、牛乳・乳製品部門において、グリコ乳業(株)の自社5工場(東京、那須、岐阜、広島、佐賀)の所在地に新会社を設立し、各工場の生産機能を移管しました。設立日は平成25年4月2日で、新会社の会社名は、それぞれ「東京グリコ乳業(株)」、「那須グリコ乳業(株)」、「岐阜グリコ乳業(株)」、「広島グリコ乳業(株)」、「佐賀グリコ乳業(株)」といたしました。また、「東京フードサービス(株)」を平成25年5月31日付で、「近畿グリコ乳業(株)」を平成25年6月30日付で、解散いたしました。

事業の系統図（当社および連結子会社）は次のとおりであります。

平成25年6月30日現在



第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）におけるわが国経済は、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果等を背景に、一部には景気回復の兆しが見えてはいるものの、海外景気の下振れや国内での雇用・所得環境の先行き等が懸念され、依然として不透明な状況が続いております。食品業界におきましては、円安による原材料価格の上昇や消費者の根強い価格志向等によって、引き続き厳しい競争が続いております。このような状況の中で、当社グループは、主力品の売上拡大や新製品・系列品の発売、店頭での特売対策等を積極的に展開いたしました。

その結果、売上面では、食品部門、畜産加工品部門は前年同期を下回りましたが、菓子部門、冷菓部門、牛乳・乳製品部門等が前年同期を上回ったため、当四半期連結売上高は78,415百万円となり、前年同期（72,953百万円）に比べ、7.5%の増収となりました。

利益面につきましては、売上原価率は、販売品種構成の変化によるアップ要因はありましたが、タイの子会社が洪水被害から復旧したこと等により、全体ではダウンしました。販売費及び一般管理費では、量販店店頭での販売対策の実施等により販売促進費等が増加したものの、その他の経費等は減少しました。その結果、営業利益は3,813百万円で前年同期（1,419百万円）に比べ2,394百万円の増益となり、経常利益は4,271百万円で前年同期（1,634百万円）に比べ2,637百万円の増益となりました。また、当第1四半期連結累計期間は、投資有価証券償還益及び売却益を特別損益に計上した結果、四半期純利益は3,552百万円となり、前年同期（686百万円）に比べ、2,866百万円の増益となりました。

各セグメント別の売上および営業利益の状況は、以下のとおりであります。

<菓子部門>

売上面では、“キスミントガム”、“クラッツ”等は前年同期を下回りましたが、「ポッキーグループ」等が前年同期を上回り、新製品“ピッテ”、“バトンドール”等も順調に売上を伸ばしました。また、海外では、洪水被害を受けたタイの子会社が復旧し、上海の子会社と同様に前年同期を上回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は22,215百万円となり、前年同期（18,401百万円）に比べ20.7%の増収となりました。

利益面では、タイの子会社が洪水被害から全面復旧したことや、国内での増収等により、営業利益は970百万円となり、前年同期（252百万円）に比べ、1,223百万円の増益となりました。

<冷菓部門>

売上面では、“パリッテ”等は前年同期を下回りましたが、“ジャイアントコーン”、“パピコ”等は前年同期を上回りました。また、卸売販売子会社2社も前年同期を上回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は18,775百万円となり、前年同期（17,060百万円）に比べ10.1%の増収となりました。

利益面では、工場の操業度変動によって加工費率がアップしたことによる売上原価率のアップや、卸売販売子会社の販売価格ダウンによる粗利減等により、営業利益は1,688百万円となり、前年同期（1,720百万円）に比べ、32百万円の減益となりました。

<食品部門>

売上面では、“カレー職人”、“ごはんによくあうシリーズ”等は前年同期を上回りましたが、“2段熟カレー”等のルウ製品は前年同期を下回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,043百万円となり、前年同期（5,808百万円）に比べ13.2%の減収となりました。

利益面では、減収と売上原価率のアップ等により、営業損失は285百万円となり、前年同期（159百万円）に比べ、126百万円の損失増となりました。

<牛乳・乳製品部門>

売上面では、“朝食プロバイオティクスヨーグルト”、“ストローで食べる朝食ヨーグルト”、“ドロリッチ”等が前年同期を上回りました。一方、キリンビバレッジ（株）からの業務受託による売上は前年同期を下回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は23,454百万円となり、前年同期(22,636百万円)に比べ3.6%の増収となりました。

利益面では、広告宣伝費は増加しましたが、増収や販売品種構成の変化に伴う売上原価率のダウン等により、営業利益は895百万円となり、前年同期（390百万円）に比べ、505百万円の増益となりました。

<畜産加工品部門>

売上面では、ベーコンは前年同期を上回りましたが、ハム、ソーセージ、“パリパリサラダ”等が前年同期を下回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,229百万円となり、前年同期(5,538百万円)に比べ5.6%の減収となりました。

利益面では、販売品種と販売エリアの見直しや、人員削減、販売促進費の削減等に取り組んだ結果、営業利益は260百万円となり、前年同期（175百万円）に比べ、435百万円の増益となりました。

<食品原料部門>

売上面では、“A-グル”や“CCD（サイクリッククラスターデキストリン）”等のファインケミカル製品が前年同期を上回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,334百万円となり、前年同期(2,241百万円)に比べ4.1%の増収となりました。

利益面では、円安による輸入原料価格の上昇の影響を受けて売上原価率がアップしたため、営業利益は144百万円となり、前年同期（169百万円）に比べ、25百万円の減益となりました。

<その他部門>

売上面では、スポーツフーズ、オフィスグリコがいずれも前年同期を上回りました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,364百万円となり、前年同期(1,266百万円)に比べ7.7%の増収となりました。

利益面では、増収による増益等により、営業利益は67百万円となり、前年同期（13百万円）に比べ、53百万円の増益となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

1) 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社の企業価値・株主の皆様の共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社では、グループとして企業価値の確保・向上に努めておりますが、特に、当社の企業価値の源泉は、長年にわたって築き上げられた企業ブランド及び商品ブランドにあります。そして、当社は、このようなブランド価値の根幹にあるのは、商品開発力の維持、研究開発力の維持、食品の安全性の確保、取引先との長期的な協力関係の維持、企業の社会的責任を果たすことでの信頼の確保等であると考えております。当社の株式の大量買付を行う者が、こうした当社の企業価値の源泉を理解した上で、これらを中長期的に確保し、向上させられるのであれば、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになりません。

当社は、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

2) 基本方針の実現のための取組み

基本方針の実現に資する特別な取組み

当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させるための特別な取組みは以下のとおりです。

当社グループは、事業の効率性を重要な経営指標として認識し、グループ各社の関係の一層の強化、シナジー効果の追求、収益性の向上を図っております。また、当社グループは、中長期的な会社の経営戦略として、各部門ともに消費者の視点からの新製品や新技術の研究開発に積極的に取り組むとともに、流通構造の変化に対応した販売制度の実現や製造設備の合理化、さらに生産工場の統廃合を実施し、収益力の向上を図り、事業基盤の安定を目指しています。さらに、安心・安全という品質を維持するために、製造や輸送段階だけでなく資材調達時点でのチェック体制も強化し、消費者やお得意様に信頼される企業であり続けるように努めています。

当社は、中長期的視点に立ち、これら取組みを遂行・実施していくことで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上してまいります。

3) 上記各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

基本方針の実現に資する特別な取組み（上記2）の取組み）について

上記2）記載の各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的な方策として策定されたものであり、まさに基本方針の実現に資するものです。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,064百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	470,000,000
計	470,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月1日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	144,860,138	144,860,138	東京証券取引所市場第一部	単元株式数 1,000株
計	144,860,138	144,860,138	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	144,860,138	-	7,773	-	7,413

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 30,282,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 112,801,000	112,801	-
単元未満株式	普通株式 1,777,138	-	-
発行済株式総数	144,860,138	-	-
総株主の議決権	-	112,801	-

(注) 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、「従業員持株会信託型E S O P(信託口)」所有の自己株式が811千株(議決権の数811個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
江崎グリコ株式会社	大阪市西淀川区歌島4丁目6-5	30,282,000	811,000	31,093,000	21.46
計	-	30,282,000	811,000	31,093,000	21.46

(注) 1. 他人名義で所有している理由等

「従業員持株会信託型E S O P(信託口)」の信託財産として、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有しております。

2. 当第1四半期会計期間末日現在の自己株式数は、31,059,514株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,889	22,055
受取手形及び売掛金	33,921	37,677
有価証券	18,658	18,449
商品及び製品	9,057	10,469
仕掛品	947	1,095
原材料及び貯蔵品	9,819	10,735
その他	5,759	5,911
貸倒引当金	304	323
流動資産合計	95,749	106,070
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,513	23,498
機械装置及び運搬具(純額)	26,333	27,015
土地	15,578	15,653
リース資産(純額)	529	546
建設仮勘定	3,078	3,591
その他(純額)	3,173	3,373
有形固定資産合計	72,206	73,679
無形固定資産		
ソフトウェア	3,006	2,745
その他	544	657
無形固定資産合計	3,551	3,402
投資その他の資産		
投資有価証券	39,548	37,693
その他	8,524	8,886
貸倒引当金	216	221
投資その他の資産合計	47,855	46,358
固定資産合計	123,613	123,441
資産合計	219,363	229,511

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,976	35,933
短期借入金	9,950	10,133
1年内返済予定の長期借入金	556	10,606
未払費用	20,126	21,622
未払法人税等	1,039	676
販売促進引当金	1,544	1,620
役員賞与引当金	44	-
事業構造改善引当金	448	274
その他	7,452	6,973
流動負債合計	72,138	87,839
固定負債		
長期借入金	15,367	5,481
退職給付引当金	9,758	9,350
事業構造改善引当金	105	105
その他	5,646	5,689
固定負債合計	30,877	20,627
負債合計	103,016	108,466
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,773	7,773
資本剰余金	7,442	7,446
利益剰余金	120,469	122,858
自己株式	26,474	26,446
株主資本合計	109,211	111,632
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,045	5,866
繰延ヘッジ損益	41	-
為替換算調整勘定	919	593
その他の包括利益累計額合計	5,085	6,460
少数株主持分	2,050	2,953
純資産合計	116,347	121,045
負債純資産合計	219,363	229,511

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	72,953	78,415
売上原価	41,752	44,014
売上総利益	31,201	34,401
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	6,846	7,261
販売促進費	9,343	10,189
販売促進引当金繰入額	67	76
広告宣伝費	3,070	2,946
退職給付引当金繰入額	383	403
その他	10,071	9,710
販売費及び一般管理費合計	29,781	30,587
営業利益	1,419	3,813
営業外収益		
受取利息	55	61
受取配当金	330	306
その他	361	349
営業外収益合計	748	717
営業外費用		
支払利息	57	64
為替差損	139	-
繰延ヘッジ損益取崩額	64	67
その他	271	128
営業外費用合計	533	259
経常利益	1,634	4,271
特別利益		
投資有価証券償還益	-	611
投資有価証券売却益	-	312
特別利益合計	-	923
特別損失		
災害による損失	253	29
投資有価証券評価損	402	-
事業構造改善費用	82	24
その他	39	-
特別損失合計	776	53
税金等調整前四半期純利益	857	5,140
法人税、住民税及び事業税	285	935
法人税等調整額	89	558
法人税等合計	375	1,493
少数株主損益調整前四半期純利益	482	3,647
少数株主利益又は少数株主損失()	203	94
四半期純利益	686	3,552
少数株主利益又は少数株主損失()	203	94
少数株主損益調整前四半期純利益	482	3,647

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	350	179
繰延ヘッジ損益	40	41
為替換算調整勘定	857	2,026
その他の包括利益合計	547	1,889
四半期包括利益	1,030	5,536
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,055	4,927
少数株主に係る四半期包括利益	24	608

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間より、新たに設立した東京グリコ乳業(株)、那須グリコ乳業(株)、岐阜グリコ乳業(株)、広島グリコ乳業(株)、佐賀グリコ乳業(株)を連結の範囲に含めております。また、今後重要性が増すと考えられるため、Glico-Haitai Co.,Ltd.を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より、当社を連結納税親会社とした連結納税制度を適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

従業員の住宅資金借入債務に対し債務保証を行っております。

保証先	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
従業員	0百万円	- 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	2,616百万円	2,613百万円

(注) 前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間におけるのれんの償却額はありません。

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,135	10	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「従業員持株会信託型E S O P(信託口)」に対する配当金を含めておりません。これは、「従業員持株会信託型E S O P(信託口)」が保有する当社株式を自己株式として認識しているためであります。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,137	10	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「従業員持株会信託型E S O P(信託口)」に対する配当金を含めておりません。これは、「従業員持株会信託型E S O P(信託口)」が保有する当社株式を自己株式として認識しているためであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)3
	菓子	冷菓	食品	牛乳・ 乳製品	畜産加 工品	食品 原料	計				
売上高											
外部顧客への売上高	18,401	17,060	5,808	22,636	5,538	2,241	71,687	1,266	72,953	-	72,953
セグメント間の内部売 上高又は振替高	0	-	-	46	60	34	141	678	820	820	-
計	18,401	17,060	5,808	22,683	5,599	2,276	71,829	1,944	73,774	820	72,953
セグメント利益又は損失 ()	252	1,720	159	390	175	169	1,693	13	1,706	286	1,419

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツフーズ部門、オ
フィスグリコ部門、システム保守開発事業部門及び倉庫事業部門を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額 286百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額 43百万
円、各報告セグメントに配分していない全社費用 243百万円が含まれております。全社費用は、主に報告
セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行って
おります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)3
	菓子	冷菓	食品	牛乳・ 乳製品	畜産加 工品	食品 原料	計				
売上高											
外部顧客への売上高	22,215	18,775	5,043	23,454	5,229	2,334	77,051	1,364	78,415	-	78,415
セグメント間の内部売 上高又は振替高	151	-	-	40	56	72	320	789	1,110	1,110	-
計	22,367	18,775	5,043	23,495	5,285	2,406	77,372	2,153	79,526	1,110	78,415
セグメント利益又は損失 ()	970	1,688	285	895	260	144	3,674	67	3,741	72	3,813

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツフーズ部門、オ
フィスグリコ部門、システム保守開発事業部門及び倉庫事業部門を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額72百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額208百万円、各
報告セグメントに配分していない全社費用 136百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セ
グメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行って
おります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円4銭	31円22銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	686	3,552
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	686	3,552
普通株式の期中平均株式数(千株)	113,618	113,780

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 1日

江崎グリコ株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小西 幹男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平井 啓仁 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている江崎グリコ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、江崎グリコ株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。